

中野区基本構想改定に係る区民等意見について

1. 意見聴取方法

区民等からの意見聴取については、以下の手法により実施した。

(1) ホームページ・区報等による意見募集

① ホームページ等による意見募集

平成 26 年 7 月、中野区ホームページに意見募集のページを開設した。併せて、区民活動センター、図書館、本庁舎に、同ホームページの紙文書を配備し、声のポストにより意見を受け付けた。

② 区報による意見募集

11 月 20 日区報に、基本構想改定の特集記事を掲載するなど、随時意見募集の記事を掲載した。

(2) 区民と区長の対話集会

平成 26 年 7 月から、「10 年後の中野のまちの姿」をメインテーマとして実施した。

(3) 地区町会連合会と区長の懇談会

平成 26 年 10 月から、地区町会連合会を対象に懇談会を実施した。

(4) 関係団体からの意見聴取

平成 26 年 9 月から、各部・室の業務に関連の深い団体等を対象に意見を聴取した

(5) 区民意識・実態調査

平成 26 年 9 月から 10 月に実施した区民意識・実態調査に、基本構想改定に係る設問を設定した。

2. 実施回数・参加人数（平成 26 年 12 月末現在）

区分	実施回数	人数
(1) ホームページ・区報等による意見募集	—	31 名
(2) 区民と区長の対話集会	11 回	176 名
(3) 地区町会連合会と区長の懇談会	6 回	66 名
(4) 関係団体からの意見聴取	35 回	583 名
(5) 区民意識・実態調査	—	1,249 名（回収数）

3. 意見件数

No.	項目	件数
1	全般	25
2	まちづくり	48
3	にぎわい	11
4	産業振興	13
5	商店街振興	21
6	環境	28
7	都市基盤（道路・交通、公園、住宅等）	31
8	人権・女性参画	4
9	子育て支援等	30
10	学校教育等	13
11	生涯学習	8
12	スポーツ・健康づくり	11
13	就労等	7
14	地域への参加・地域活動	13
15	地域支えあい	12
16	福祉・介護・医療、公衆衛生等サービス	13
17	地域自治（町会等）	9
18	防犯・防災	12
19	区政運営	26
20	平和・国際化	6
計		341

《基本構想改定に係る区民等意見内容》

1. 全般的な意見

- 基本構想の改定には、あらかじめ細かい枠組みを作らずに、「基本」の議論をするべきである。
- 基本構想は、ありふれた内容である。
- 数字で出てこない、理念ばかりではわからない。
- 10年後にどうなるのか分かりづらい構想である。
- 見出し・タイトルのようなキャプションがなく、内容がかぶっていたりして読みづらい。
- 10年後のまちの姿が「なっています、進んでいます」という表現なので、他人事のように感じられる。例えば「します、進めます」など、区民が主体的にやっていくと思われる文章表現にしてほしい。
- 高齢化率がこれからすごい勢いで上昇するはずである。中野区はどのような年齢構成のまちを目指すのか。そういう考えをもってまちづくりをしてほしい。
- 少子高齢化の中で、結婚をしない若者が増えている。婚活などという言葉もあるが、この辺の考慮も必要ではないか。
- 65歳以上を高齢者としているが、75歳以上でいいと思う。その分で若い世代に向けた施策をすれば、そのほうが地域が活性化するのではないか。
- 若い世代の意見を吸い上げる仕組みを作してほしい。
- 子ども、女性及び高齢者等、個人のことは書いてあるが、家族のことが書いていない。町会加入率の低下や地域での横のつながりが希薄になっていく中、生活の最小単位である家庭を地域に根差せるような施策を書くべきではないか。
- 在学、在勤者への視点が欠けている。
- 地域における行政の役割と民間の役割の区分けをなるべく無くし、民間を活用し、産学公の構図を考えるべきである。

- 持続可能な地域社会となるには、住民が住み続けたいと思う条件が必要である。
- 住民の暮らしを守り、安定を図ることが、計画策定の基準であるべきと考えるが、現状はそれに逆行したものとなっており、住民の声が反映されているとは思えない。
- 血の通った政策を行うべきである。福祉や防災に力を入れ、人の温かさを育むような施策展開をしてほしい。
- 公共施設の在り方、スポーツ施設の在り方などについて、きちんと数字を盛り込んでほしい。
- 現在の人口分布と 10 年後の人口分布は異なっていると思う。その意味で、これから必要になる公共施設も変化するはず。
- 今後の 10 年間の好機を逃さないよう、情熱をもって積極的に、豊かで安全なまちづくりを進めてほしい。
- 流山市では、「母になるなら流山市」という、子育て世代を呼び込むためキャッチフレーズがある。キャッチフレーズなども基本構想に入れてもらいたい。
- 生まれ育った中野の街にとっても愛着がある。便利な近代化も良いが、昔の面影も残しつつ、美しく安全で地域の人々がマナーを守り仲良く暮らせる、温かい住みやすい街になると良い。
- 世界に誇れるくらい、愛すべきところのあるまちになってほしい。
- 日常時と非日常時の両方において、「中野に住んでいて良かった」と思えるまちになると良い。
- 他区にない自慢できる特長のあるまち。老若男女、全ての人が、楽しんでいつまでも住みつづけたくなるシステムが機能するまち。
- 他の区との明確な違いがあること。「中野といえば…」がはっきりとすること。

2. まちづくりに係る意見

(1) 全体的事項

○いくつかの拠点に、役所機能や病院や学校などの施設を集めてコンパクトシティを作ったらよい。高齢化等も進み、多分人口も減少していく中で、そういう街が、これからの時代は便利ではないかと思う。

○大型開発や大企業の誘致による地域や産業活性化ではなく、現状ある企業や商店、建物や施設を活用しボトムアップするようなサステイナブルな成長の仕方になるとよいと思う。

○東京オリンピック・パラリンピックの頃には、中野駅の南北通路など、障害者や老人にやさしいまちにして欲しい。心のケアを含めてやさしいまちづくりのコンセプトを立ててはどうか。

○区のあり方をどうとらえているか。オフィス中心で拡大してくのか。住宅地としての需要も強い。明確な位置付けが前提としてあるべきだと思う。

○中野のまちの良さ（駅周辺の商店街など）が残る、活気あるまち。今のままだがよい。

○もっときれいな街並みの「中野」になっていてほしい。また、散歩をしても楽しい美しい街。

○現計画では、東京の新たな顔となるべく中野駅周辺のまちづくりが動き始めているとあるが、中野らしいまちとして、みどりがあって安らげるまちが良い。

(2) 中野駅・東中野駅周辺

○子どもから高齢者まで、希望に満ち溢れる未来都市をつくるため、中野駅周辺に、ホテル、住戸、オフィス、医療機関、区役所、大ホール、商業施設等が一体となった超高層多機能ビル（地上 60 階、300m）を建設したらどうか。

○副都心機能の飛躍、新たな観光スポット形成のため、高層階モノレール（地上 30 階、150m）で、中野、新宿、渋谷を結んだらどうか。

○中野駅北口には企業や大学を誘致し公園も整備されているが、駅前には金融業の看板が多く下水の臭いもして、教育・文化を感じられない。景観に配慮したまちづくりを進めてほしい。

○中野駅南口に 30 階のビルが計画されているときいた。人を呼ぶまち中野にするためにも、ホールや映画館等を誘致してほしい。併せて、駅前のバリアフリー化（段差解消や点字ブロック整備など）も考慮してほしい。

○中野駅南口の団地周辺の開発の際には、大規模商業施設、スーパー銭湯、映画館等の集客施設を整備してほしい。また、駅ビルには、高級感のあるスーパーを入れてほしい。

○中野駅南口の団地周辺の開発の際には、現在の駐輪場と再開発後の施設の往来ができるようにしてほしい。

○中野駅南口の中小ビルの統合により、駅前の印象が大きく変わるのではないか。

○中野駅南口から高円寺方面へ移動する際、急な登り坂がある。そこにエスカレーターを設置したらどうか。

○中野南口開発では、公共施設を整備してほしい。

○中野二丁目まちづくりについて、堀江高齢者福祉センターの跡地が公園になるが、堀江という名前は残してほしい。

○中野サンプラザは、取り壊して同じものを作るのか？中野のシンボルなので、ぜひ同じものにしてほしい。障害者にやさしい街づくりに配慮してほしい。

○中野サンプラザの建て替え工事に反対する。

○中野区役所の建て替えについては、中野サンプラザの場所等、駅の近くに作って欲しい。

○中野駅について、ホームドアは、視覚障害者だけでなく、身体障害者や高齢者等の安全のためにも有効であるのに設置が進まない。

○中野駅構内には、エレベーターがない。このほど、北口改札外側に新たにエレベーターが設置されたが、ホームに通じるものではなく、役所方面に通じているだけで、駅の利用にはまったく役に立たない。

○中野駅周辺の開発が進み、大学やオフィスもできた。オリンピックも控えており、まちづくりの観点にもグローバル対応が必要、もっとその視点を入れていくべきである。

○駅周辺の開発の中で駐車場も是非しっかり作ってほしい。

○旧桃丘小学校跡地に住民が活動する場としての機能を持たせてほしい。

○ゼロホールは駅からの距離が遠い。区役所、体育館、ホールの立地を含め、一体的に整備してほしい。

○中野駅周辺と中野坂上地域のつながりのあるまちにしたい。モノレールを走らせるとか。中野全体の発展が必要である。

○中野坂上のオフィスビル群が閑散としており、なかのゼロは孤立している。これらの連携を図ることを考えてほしい。

○東中野駅東口周辺においては、バリアフリー化や駅周辺におけるにぎわい創出及び街の活性化に向け、地区まちづくり団体が主体となって検討が行われており、今後は具体的なまちづくり活動につなげていく時期に来ている。「東中野駅東口周辺」について基本構想の中に明記してほしい。

(3) 西武線関連

○新井薬師前駅のあたりは、高齢者に喜んでもらえる駅前町になるのではないか。また、移動距離を考えると、駅からのシニアカー（無償・有償レンタル）の運用が必須だと考える。

○沼袋駅と平和の森公園の間をシニアカー（レンタル）で結んだらどうか。

○野方駅前のアスファルト道路のデザイン化が望まれる。

○鷺ノ宮駅の高架化（踏切の撤廃/渋滞緩和）が必要である。また、駅舎の改修も含め、駅前開発を考慮してほしい。

○鷺ノ宮駅立体交差事業は10年、20年かかる。開かずの踏切対策として、エスカレーターの設置はできないか。

○鷺宮地区は、公園面積が少ないので、鷺宮小学校跡施設を緑の校庭と文化発信基地にして欲しい。

○都立家政駅前の大型建物が空屋になっている。この再活用を行うと、まちのイメージアップになると思う。

○高齢社会を踏まえ、駅周辺に巣鴨のとげぬき地蔵地域のような「おでかけ」場所を整備したらどうか。さらに、バリアフリー化することで、商店街で楽しいショッピングができるのではないか。

○西武線立体交差化事業をどのように地域の活性化に役立てるかを考えたい。鉄道敷きだった所にベンチを置き、逸品の露店を出したり、高齢者の散歩コースにできないか。

○西武線の地中化が進むと、清掃事務所のあたりは、桜並木もあり、休憩スポットになるのではないか。

○西武線の線路がなくなった後、まちは必ず変わってくると思うが、区は未来構想を持っているのか。跡地がビルだらけになるのはいかがなものかとか考える。

(4) その他の地域等

○東大の敷地に、ほとんど使用されていない駐車場スペースがある。区が買い上げて公園を整備し、有効活用してほしい。

○新山小学校跡地の活用方法が気になっている。出来れば高齢者のための施設や、高齢者と子どもたちが交流できる施設をつくってほしい。

○新しい体育館はどこに建てられるのか。オリンピックも見据え、利便性の良い駅に近い場所にすべきではないか。

○郵政跡地は公園にするということだが、公園だけではもったいない、建屋がないと防災面でも使いづらい。また、子どもたちの居場所づくりも大切である。

○郵政跡地の西側道路は蛇行し、狭く、暗く、自転車やバイクがスピードをあげて走行することもあり大変危険である。学校統廃合により子どもたちが通学路として往き来することになることを思うと、拡幅する等安全性の確保を図るべきである。

○区は観光を支援しているが、観光バスを止められる場所がない。駅から商店街へ雨に濡れずに行ける通路などを整備すれば、周辺の建物価値は大きく変わる。周辺へ雨にぬれず移動できる通路、その先の駐車場といった整備が必要である。

○区内にごみ焼却施設をつくり、その余熱を利用して、銭湯等を整備し、高齢者等が気軽に入浴できるように配慮したり、温水プール、ヘルスセンター等を併設し、幅広く区民が利用できるようにしたらどうか。

○マンション建設にも区が条件を付けて、まちづくりを進めていったほうがいい。

3. にぎわいに係る意見

○きれいで、楽しくなって、見に行ける場所があつて、そういう場所に人が集まる。そうすれば税収がアップし、まちが活性化すると思うがどうか。

○「賑やかになれば良い」という印象が強いが、住民のどういう層を対象にしているのか。中野で生まれ育ったが、緑が増えた印象はなく、どんどん減っていて、「こんな風になってしまうのか」という思いが強くなり、とても寂しい。

○若者むけの店も増やしてほしいが、今ののどかな雰囲気も大切にしてほしい。バランスが大切だと思う。

○中野の特色の一つであるサブカルチャーの発信等を行うべきではないか。

○文化の薫るまちとして、美術館の建設等、中野に暮らす人の憩いの場があるようなまちづくりを進めてほしい。

○総合大学を誘致することが望まれる。

○企業誘致は経済的側面だけでなく、企業と在勤者の地域貢献への取り組みが必要である。

○大和町の道路、橋、公園などの施設には説明表示がほとんどない。歴史的な施設には説明表示がほしい。

○区民と区が対等の関係で、企画段階から参加し、施策・イベントを検討・実施する場が必要ではないか。

○地域の活性化や「若者の街」のイメージ定着のため、大学と連携して「(仮称)クリスマス・ミュージック・フェスティバル」を開催したらどうか。

○せっかく四季の森公園を作ったのだから、大きなイメージで、区民を巻き込んで、イメージアップを図りながら、みんなで関われる事業を展開してほしい。

4. 産業振興に係る意見

○企業を誘致するとともに、企業、大学、行政の連携による新たな産業の創出に配慮してほしい。

○これまでの10年間の産業振興の実績について、実感がない。産業界にとっては場所や建替えが問題。産業界がうるおい、投資・雇用につながるような施策を検討して欲しい。

○公共用地を使った産業振興施策は一定程度評価ができるが、民有地では進んでいない。空き店舗や空き家の対策など先進的な取り組みを進めてほしい。

○大学誘致や若者が興味を持つ文化的環境はすでに有るので、その人達が定着するよう産業の振興に力を入れてほしい。

○施設や人材がないと立ち行かないので、経常的な下支えの施策を行って欲しい。

○資格を持った従業員の不足が問題となっている。今の若者は資格を取らない。バス業界では50歳代の資格保有者の取り合いになっている。採用後に資格を取らせているが追いつかないため、業務縮小も考えている。

○ある分野では必要な資格を取ってもらえない。各種学校も人員割れしている。人材育成事業に取り組むべき。

○店舗の建て直しに当たって、区条例や都条例によって駐車場設置を義務付けられているが、土地代が高くて採算に合わない。

○企業の活動の場所がない。既存不適格の建物は、面積が減ってしまうため建替えが進まず、老朽化してきている。だから、ある程度会社が大きくなると転出してしまう。企業が区外転出すると、雇用もなくなってしまう。

○産業力には建物の問題が大きい。容積率はどのくらい広がったのか。公共地の開発と民間地の開発は違う。民間地の開発は、防災対策をやらないと建替えさせないのではなく、建替えたくなるインセンティブが必要である。

○子育てしやすいまちになるには、若者の定着が重要である。そのためには区内で雇用を生み出す必要があると考える

○子育てする人を助け、労働人口を増やすことは、区の財政にとっても重要であり、勤労者支援という観点からも重要である。

○労働環境を支える施策が出されていない。地域の人が勤められる産業を強化するために、既存産業をもっと支援して欲しい。

5. 商店街振興に係る意見

- なによりも地元商店街の活性化策、地域社会の核となるような商店街の形成が必要ではないか。
- 商店街が地域の他の組織や団体との結び付きを強め、その連携により新たなコミュニティの核としての形を作っていく必要がある。
- 業種構成の整った商店街として、【地域の消費活動】を支えていく必要がある。
- 子育て世代は購買意欲も高く、商店街の中に子どもを預けることのできる施設があれば、顧客の獲得になると同時に、地域コミュニティの核としての役割も果たせる。
- 道路拡幅・再開発等により、商店・人口の減少がある。従前からの商店が残れるような対策を行ってほしい。
- 大型店を拒否するつもりはないが、商店街と大型店のバランスのとれた商業エリアとしたい。
- インターネット通販は適正な規制を行わないと、商店街の存続を危うくする。
- 個人商店（日用品、食料品、飲食）を始める若い人から中高年が町に定着することが望まれる。
- 福祉活動や環境活動が商売につながるようになり、商店街が継続的に安定的に地域のための活動を行っていることが必要（そのためには行政のサポートも必要）。
- 区で発行した五か国語対応の観光案内マップ「びじっと中野」は良かった。商店街としても外国人経営者の店舗の加入促進を進めたい。
- ブロードウェイ商店街について、新たな構想を整備しないと、マニア的な若者だけが来るまちになってしまわないか。
- 中野駅に外国人の方々を見かけるようになった。大学ができて留学生の方々がいると思う。ブロードウェイにブースをつくり、留学生の方々にガイドになってもらうのはどうか。
- 西武線立体交差化事業をどのように地域の活性化に役立てるかを考えたい。鉄道敷きだった所にベンチを置き、逸品の露店を出したり、高齢者の散歩コースにできないか。
- にぎわい補助金（中小企業庁地域商店街活性化事業）は、多くの商店街イベントが誘発され、商店街のみならず地域活性化という意味でも効果があった。

○イベントは継続して打ち続けることが必要であるが、商店街には資金が無い。長期（例えば10年間）で安定した補助金が受けられることが分かっているならば、商店街としても計画が立てやすい。また小額でも柔軟な助成制度も作ってほしい。

○今後、さらに地域の高齢化は進展する。商店街では既に「しんせつ相談員」という制度で高齢者対応を行っているが、商店街のみではなく地域としての活動が必要である。

○新井薬師の環境を考える会のエリアだけでも60以上の団体が地域のために様々な活動を行っている。そのような団体が行う高齢者の見守り活動にポイントを付与し、行政の援助も加えてそのポイントに価値を持たせる。そのポイントを区内共通商品券と交換できるようにするなど、地域通貨として扱う、といった制度はどうか。

○高齢者等のため、地域の中にベンチの設置などを行っているが、条例により歩道（区道）にベンチを設置することはできないなど、制約も多い。また、地域コミュニティの核として公園でイベントを行うにも制約が多い。状況や目的により、それらを緩和するなどしてほしい。

○商店街に後継者がいないのではなく、商店での経営では生活できないから後継者にならないのである。長期的展望も活性化への良いアイデアも無い、一時的なイベントを助成金消化のために行っても成果は出ない。商人としての努力も必要であり、行政も助成金の効果をきちんと考えて制度をつくってほしい。

○後継者不足もあり、現状を放置すれば店舗はテナント化していく。店舗所有者は利益を優先するため、商店街や地域にとって好ましくない業種・業態も入ってきてしまう。それを調整する制度が必要である。

○10年後を見据えて、人材（若手）育成のための行政の支援を充実してほしい。

6. 環境に係る意見

(1) みどり・自然

- 緑にあふれ、動物や人間が安全、安心に共生できる温かく、活気あふれる街である事。
- 都市としての利便性を維持しかつ自然環境を維持する。
- みどりを大切にできる街。一度失うと、回復するのは大変だから。
- 自然を残すだけでは無く、自然を増やしていく。子供に優しい環境を作っていく。
- 緑を増やすためには、種を配るだけではなく、育てること、維持管理することも必要だ。そのことも視野に入れてほしい。
- 緑を豊かにするには、子どもたちに心豊かに自然の営みを理解してもらえるように自然の循環の営みを学ばせたい。
- 緑をもっと大切にしてほしい。保護樹林に指定された場所にはきちんと剪定の費用を出して、継続的に管理できるようにしてほしい。
- 気管支系の疾患のある子どもが増えているので、大きな道路の緑化を強化する等の対策をとり、大気汚染が減っているまちを目指してほしい。

(2) CO2 排出抑制・自然エネルギー

- CO2 の排出量の抑制を考えると、自動車の利用抑制目標が設定されていないのは問題である。
- 自動車利用の抑制（CO2 排出抑制）のため、道路の一方通行化や車止めの設置で遠回りを強い、他の移動手段より所要時間が長くなるようにする。スピードカメラなどを増設して速度違反や駐車違反の摘発を強化する。駅や商店街などには自家用車でアクセスできないようにすることを考慮すべきである。
- 自動車利用の抑制（CO2 排出抑制）のために、自転車レーンや自転車道を連続的に整備し、安全かつ快適に走行できるようにする。また、駅前の便利な場所に、無料駐輪場の整備、街中の放置規制を支障の無い範囲で解除したり、新築の住居に駐輪場所としても使える収納スペースの設置を義務付ける。
- 夏冬の冷暖房時の断熱について、施策・指導を望む。

○水素燃料電池自動車が3年後に生産導入されるが、価格が高く、水素ステーションがまだない。人口密度が高いとエネルギーが大切。区として、水素への切替投資への助成などを検討できないか。

○太陽光など自然エネルギー利用を進めていくことを明確にするべきである。また、ごみの発生抑制など家庭生活ではなく、環境全体に対するグローバルな視点が必要である。

○「多様な自然エネルギー…」の「自然エネルギー」には、石油や石炭なども含まれると思われる可能性があるので、「再生可能エネルギー」とした方が良い。

○「再生可能な資源の利用が進んでいる」と加えたい。再生可能な資源には、エネルギー以外にも、雨水や緑のカーテンなど自然の知恵力の利用も含まれている。

(3) ごみ・資源

○ごみの量を1/2にするというように、具体的な数値を盛り込んでほしい。

○ごみの削減については、町会と中野区地域環境アドバイザーなど地域で活動する人たちとの連携ができると良い。

○家庭ごみの有料化には反対である。

○分別化について、区民に周知し徹底することに力を入れてほしい。

○各家庭の生ごみをコンポストで処理できれば40%のごみの削減、CO2削減にもつながる。ごみが立派なたい肥になる。この活動を認めて推進してほしい。

○ごみ集積所については、清掃事務所と相談をしているが、他のエリアから捨てにきて困っている。戸別収集に切り替えるべきではないか。

○ごみの出し方について、町会の掲示板を使いPRしてほしい。また、ごみの減量のために「ごみは資源です」、「税金です」というようなごみに係る費用を、町会の掲示板や区民のひろばで一定期間広報することも必要である。

○マンション等の建設の際に、ごみ置き場の設置を義務付けてほしい。

○資源回収の資源の持ち去りは、町会・自治会の収入にも関わり、何とかしてほしい問題である。

(4) その他

○「区民の環境保全の活動の場所となる拠点が設けられている」と加えたい。拠点とは、区と区民の環境活動の情報交換ができ、地域活動ができ、活動する人を育てる場所である。

○地縁や目的を共有する組織や団体が気軽に集い、情報交換や研修・学習しあえる「居場所」の確保が必要ではないか。

○現状の地域環境の「助け合いの仕組み」を、未来志向の視野に広げる（活性化）には、区に、「注文するだけ」や、「反対の為の反対」でなく、地域環境の助け合い活動を進める側も、互いに「生かしあう」事が最優先事項と心したい。

7. 都市基盤（道路・交通、公園、住宅等）に係る意見

(1) 狭あい道路等

○狭あい道路、行き止まり道路の改善を進めてほしい。火災、地震などからの防災対策としても必須であるが、車が通れない程細い道が多すぎると暮らしづらい。

○道幅の狭い道路をなくす。セットバックしていても、電柱がそのまま、道をふさぐかたちになってしまっている。

○歩道があっても、自転車が来れば、溝か、店に入らざるを得ない凸凹道が殆どで、車椅子などとても無理。生活道路に車が来れば、電柱の陰に避難ということが現状である。区を通り抜ける車の制限、運搬の小口化や夜間配送など工夫が必要である。

○道路の幅員は6メートルにするべきではないか。4メートルでは消防車や救急車が通れない。そのかわり、セットバックの際に規制緩和をするなどのボーナスをつけるなどが必要となる。

○これから老障介護状態から障老介護状態となる。弱者にとっていい街になってほしい。道路幅を広げることや坂道などを歩行しやすくしてほしい。

○もみじ山通りについて、道幅が狭く交通が不便である。

(2) 公園

○区は、大規模公園の整備に力を入れているが、身近な公園も、集まれる場所として必要である。

○公園のみでなく、けやき並木など歩ける街路樹の整備もして欲しい。

○目の不自由な方々は、連れて歩く盲導犬のトイレに困っている。できれば公園などの誰でもトイレに盲導犬もトイレができるような設備を開発してほしい。

○子どもが地域で様々な体験をしていくためには、公園の整備が欠かせないが、公園に魅力がなく、清掃等が行き届かず汚い。乳幼児も利用できる魅力ある公園づくりを望む。

○緑を重要視して、「10年後は公園が増えている」と加えてほしい。

(3) 空き家・住宅

○空き家は犯罪の温床になったり、火災なども懸念される。他区では、空き家取り壊しの支援、固定資産税の免除、一定期間の公共活用・用地管理などの施策を実施している。

○戸建ての空き家が増えている。更地にすると税金が高くなるので家屋をそのままにしているようだ。

○10年後といわず、空き家対策を早急に実施すべきである。

○空き家の利・活用については、更地にしても税金がかからないようにすれば、老朽化した建築物を壊すことも進むと思う。

○火災、安全、衛生面から空き家問題は深刻なので、区の裁量で処置する方策を考える必要がある。

○中野区は、狭小住宅が多い。大学生など若い世代が定住できるような住宅政策が必要である。

○高経年のマンションがどんどん増えていく中で将来が不安になる。今のままでは耐震補強も建替えも、費用面などの制約が大きくて、なかなか進まないだろう。スラム化していく恐れもある。

(4) 防災まちづくり

○緑豊かな公園、運動場、グラウンドを整備することにより、災害時の避難地域の安全を高めることができるのではないか。

○災害危険度の高い地域では、既存の小さな公園を拡大してもらいたい。公園の隣接地が売却される時には、公園の拡張用地として区で取得してもらいたい。

○10年後を見据えるのであれば震災に強いまちづくりが大切。耐震診断、耐震補強に補助しても15年程度しかもたない。セットバックもパラパラ行われて、狭あい道路は何十年経っても改善できない。行政による買い取りや住み替えあっ旋などしなければ実現できないのではないか。

○新築には助成金が出るが、耐震診断・耐震計画までは区が無料で行って、耐震補強工事に対する助成金がないなど、耐震化を促進する制度としておかしいのではないか。

○中野区は都内でも指折りの防災に弱い区と聞いている。防災に強い街づくりを進めてほしい。道路計画なども含め。コンパクトシティ計画は防災に強い街づくりにもつなが

るかもしれない。

(5) 自転車・交通

○自転車から降りることなく、歩道を我が物顔で走る自転車が多すぎる。自転車専用通行路を作ってほしい。

○東京オリンピックを控え、国際的なまちづくりが注目されている。自転車のマナーについて、もっとよくして安全なまちを作ってほしいと思うが。

○自転車対策を何とかしてほしい。沼袋駅前に交通広場ができるらしいが、先日踏切で死亡事故が発生した。道を広げ、自転車の通れる部分をつくってほしい。

○中野区は南北の交通が不便である。南北をつなぐコミュニティバスなどを考えてほしい。

○小学生に交通安全指導を行っている。鷲宮、若宮地区に設置している区の交通標識は、侵入車両などに対する規制が弱い。何のための標識なのか考えてほしい。安全対策が課題である。

○新たな道路拡幅の際、目で読める情報を増やしてほしい。

(6) その他

○既存不適格の建物をどうしていくのか。用途地域や容積率、建ぺい率など制約が多く、地区計画によるまちづくりを進めるにしてもインセンティブを用意しないと進まない。

○まちづくりを地区計画で進めるにしても、民間任せになっているのではないか。建物の高低制限、色などの景観も含め統一感のあるまちづくりを進めるためにも行政が主導し、容積緩和などインセンティブを用意しなければ民間は動かない。

8. 人権・女性参画に係る意見

○目の不自由な方々は、連れて歩く盲導犬のトイレに困っている。できれば公園などの誰でもトイレに、盲導犬もトイレができるような設備を開発してほしい。

○女性の活用について、1度仕事を離れた人が地域で働けるよう、地域で安心して子どもを預けられる環境を整えるべき。大企業は社内保育所を作れるが、中小企業にはできない。

○虐待児の緊急一時保護施設を充実させてほしい。親に見放されても、保護・救済され、「中野だったら安心だ、中野にいてよかった」と思えるような安全な居場所を整備してほしい。

○区の管理職でも部長クラスなどに女性が少ない。頑張る女性の見本となるよう、数値の目標など示して取り組んでもよいのではないか。

9. 子育て支援等に係る意見

(1) 全体的な意見

○若い世代が他区に出ていくのは、中野で子育てするのが難しいからである。人口を増やさないと経済力はつかない。若い世代を留めることを考えてもらいたい。

○幼児期は中野区に在住していても、小学校に上がる時に転出する子育て世帯が多いと聞いている。商業エリア、住居エリア、グリーンベルト等の調和を図って、子育て世代が引き続き住んでもらえるように今後へ向けて考えていくべきである。

○小学校に入るまでは子どもを夜間でも預けられるようにしないと、女性がフルで働けない。昔と違って近所での支え合いもないため、親にしわ寄せがいくことも多い。生まれてくる子どもを増やすためには、高齢者への優遇ばかりでなく、働く女性のいる世帯が子どもを預けられる環境づくりが必要ではないか。

○子どもが安心して成長できるまちを目指すべきである。そのために、低所得層の学習支援を強化すべきだと思う。

○大都会であっても自然とかかわりあって成長していく子どもの姿が必要である。

○子どもたちが「夢や希望をもって暮らせるまち」、「心豊かに命を育むまち」という内容が必要である。

○中野で育った子ども達が、ずっと中野に住み続けたいと思うような街。子育て世代の夫婦が中野で自分達の子どもを育てたいと思う様な街であって欲しい。

○安心して子育てと仕事の両立ができるまち。

(2) 保育園等

○公立の保育園、幼稚園が圧倒的に足りないと思う。近所の方で働きたいけれど保育園に預けられないという方がたくさんいる。

○保育園の数を増やしてほしい。また、認可保育所と認証保育所の差がありすぎる気がする。

○保育園が足りない。マンションなどを利用する認証保育園は多いが、認可保育園が少ない。学校の閉鎖なども進んでいるが、校庭もあるので認可保育園としての再利用など進められるのではないか。

○女性の活用について、1度仕事を離れた人が地域で働けるよう、地域で安心して子どもを預けられる環境を整えるべき。大企業は社内保育所を作れるが、中小企業にはできない。

○保育園・幼稚園等の配置について、区内での格差をなくすようにしてほしい。

○子どもの保育園無料化、高校無料化をしてほしい。

○杉並区では、区の補助を受け、民間事業者が障害児向けの保育所を開設すると聞いている。中野区でも同じように取り組んでもらいたい。

○どの子どもにも質の高いサービスを多様に提供していくとしているが、園庭のない保育施設ができてくるなど、具体的に進めている施策が目標にあっていないように思える。

○区内の保育所が増えるのはありがたいが、新しい民間保育所は新人の保育士ばかりでベテランがいない。バランスのとれた人員配置を。

○待機児童等の対策もよいが、一定の手当てを支給して、親が面倒を見るほうが望ましい状態なのではないか。

○子どもが小さいうちは、保育園に預けるのではなく、母親が家で子育てできるほうがよいと思う。そういう社会をつくっていくことのほうが大事なのではないか。

(3) 児童館・学童クラブ等

○学童クラブで待機児童が出ていると思う。学童クラブや児童館など放課後の過ごし方についてのサービスが充実してほしい。

○学童クラブが小学校に吸収され、既存の児童館が減少し、乳幼児のための施設が減っていくのではないかと心配している。

○女性が働く前提として、子どもを預けなくてはならない。保育園だけでなく、学童保育からも追い出され、子どもが夏休みのために母親は働けないということが起こっている。

○就労する母親が増加していくのであれば、学童クラブの対象学年をもう少し長くしたほうがよいと思う。

○児童館が減って、子どもの居場所が減少してきている。小さい子どもが行ける場所がなくなるのは、母親にとって不安であり、サービスの後退ではないか。

○江古田キッズプラザが平成 27 年度から民営化される。民間運営に移行すると、今まで職員とうまく情報共有できていたことが、同様にはできなくなってしまうのではと心配である。養育上心配な家庭など、民間事業者になると、関わりが希薄になるなど情報共有化が難しくなりそうだ。

(4)子育て支援

○多子家庭に補助を出していくとか、税制上の控除を行っていくことも重要だと思うがどうか。

○中野区の病院には、小児が入院できるベッドがない。環境を整えることで子育て支援になるのではないか。

○杉並区では、乳幼児の親や子育てを応援する団体が一緒になっておまつりを行い、子育てを盛り上げている。中野区でもやってみてはどうか。

○子育て・子育てのサービス拡充を述べているが、中野区は予防接種の補助が少ないと聞くが、いかがなものか。

○親支援プログラムを行っている。0才や1才児をもつ親御さんの悩みもよく聞く。そういう親御さんを支援するようなプログラムを中野区も採用してほしい。

10. 学校教育等に係る意見

○公立小学校・中学校への財源提供や、学童保育などは、他区と比較すると非常に手薄になっている印象を受ける。

○1クラス2名体制の教育者の確保、学童保育の充実、小・中一貫等のオリジナルな取組による学力の向上などを要望する。

○学校の新設・廃止等による学校区の変更は、児童の通う学校が変わるので、子ども仲間の付き合いを阻害し、卒業後の同窓会等、地域での交流・まとまりの基礎を奪うのではないか。

○徳育、歴史教育の充実を。

○学校間の競争原理の導入により、教育の質の向上を図ったらどうか。

○いじめ条例を制定し、罰則等を明記して、いじめの撲滅をするべきだと思う。

○幼稚園の教育をサービスと表現するのではなく、中野区の子どもたちに「質の高い良質な教育」をしていくことが大切だということを明記すべきである。

○保育の必要性の記述と同時に、良質な幼稚園教育の必要性の記述をしてほしい。両者が等しく重要で必要であるという体系にしてもらいたい。

○命の大切さなどを教え、幼稚園は幼児期に必要なものを子どもたちに伝えていく場であると思っている。

○時代の流れにより幼稚園と保育園の良いところを合わせていきたいというのは分かるが、幼稚園と保育園をすべて同列に考えるのではなく、それぞれの役割も踏まえることが必要である。

○学校の教育を充実させるために、スポーツの得意な外部の人を使えないか。

○小中学校の授業に赤ちゃんへの接し方などを盛り込んだらどうか。

○学校給食の放射能検査は、他区では実施している。中野区でも実施してほしい。

11. 生涯学習に係る意見

- 多文化共生の住みやすいまちづくりに、生涯学習が活かせることを明文化すべきである。
- それぞれが行っている生涯学習を統一して推進できるよう、ビジョンを示してほしい。
- 学習の成果を生かすだけでなく、社会参加や地域を支える人材の育成も大事である。
- 生涯学習に関する情報提供と社会・地域活動参加につながる人材育成について、具体的な方法論が示されていない。
- 地域の中で多様な活動に参加していく人材の育成のためには、共に学ぶ場が必要である。
- 学校数が減少すれば、区民の学校開放による運動の場が減少するため、その対応策について考えているのか。
- 新体育館建設や空いた学校を地域に開放するなど積極的にすすめてほしい。
- 図書館は、生涯学習や多様な世代が集まり、魅力的なまちづくりに繋がる施設だと思う。

12. スポーツ・健康づくりに係る意見

○「継続的にスポーツを楽しむ場など、区民が学習する機会とその成果を生かす場が、地域の中に広がっています。」と表現されているだけだが、スポーツの重要性を考えるともう少し盛り込んだ方がいいのではないか。

○区長は、本年6月の施政方針説明の中で「健康づくり・スポーツムーブメント」について触れていることから、新たな基本構想については、この点について明記した方がいいのではないか。

○健康づくり、スポーツムーブメントの具体策が見える形にしてほしい。

○中野区は、スポーツをしていない人にきっかけを提供し、裾野を広げることを重視するのか、それともトップを目指す人への支援を重視していくのかを明確にするべき。

○スポーツの優秀な人は、都民大会に参加するため、どこかのスポーツ施設に登録する。中野区は区内にスポーツ施設がないために、区外で登録を行っていたりする。区内のスポーツを振興するためにも総合運動施設を作れないか。

○平和の森公園の草地広場に陸上トラックを作れないか。計測したところ、十分に入る広さである。

○マラソン大会を開催するにも、開催できる道路や場所がない。また、中野体育館も老朽化している。

○（仮称）中部地域スポーツ施設と学校開放では、料金が違いすぎる。また、遠い場所にあるので、大会・教室等の実施場所としては使いづらい。

○スポーツクラブにプールが無いことは如何と感じている。

○できるだけ区でスポーツ団体を把握して「見える化」してほしい。そうすれば、スポーツ事業を実施するに当たり、他の団体と同じ内容にならないようになる。

○健康セミナーの開催、遊歩道の整備による散歩を通じた健康維持。

13. 就労等に係る意見

○若年層の起業、女性の社会進出を支援し、誰もが就労できるように職業訓練を充実させてほしい。

○高齢者の雇用を増やし、「生涯現役人生」を実現してほしい。

○会社は仕組みを整え、社員は責任をもって成果物を上げるような、バランスの良いモデルケースをつくって、子育てしやすいイメージを与えれば、郊外に出て行った人も戻ってくると考える。

○女性は、子どものお迎えまでの間など、短い時間を有効活用して、社会と関わりたい。ICTが発達し、在宅テレワークやバーチャル会議など、どこでも働ける環境が整ってきている。

○行政と産業界が協力してできることは、やりたいと思っても不安を持っている人を後押しすることではないか。女性が働く前提として、子どもを預けなくてはならない。保育園だけでなく、学童保育からも追い出され、子どもが夏休みのために母親は働けないということが起こっている。

○区が資格取得セミナーをやることはない。それらを行っている民間事業者をつぶしてはいけない。民間を活用して一緒にやって欲しい。

○サロンなど高齢者が集まれる場所を増やしたり、仕事ができる人には就労の場を提供したり、またそうでない人には様々なサービスを通じて、より良い生活ができるようにしてほしい。

14. 地域への参加・地域活動に係る意見

○若い人達にも社会貢献の意識が根つき、その意識・行動が地域社会の中で受け継がれ循環していくまちづくりが必要である。

○区民活動センター等を拠点として、子育てをしている人、高齢者、障害者などを対象に、相談、就労情報、仲間づくり、ボランティア（活動、利用とも）などをコーディネートする場を設置してほしい。

○高齢社会を踏まえ、退職者等を受け止める地域コミュニティづくりが不可欠である。そのため、町会等の地域活動だけではなく、個人の嗜好・趣味などを生かせるサークルなどが必要ではないか。

○交流の場づくりということが大事になってくる。そのなかで空き家の活用など他区を参考に交流の場として開放する取り組みなどをしてはどうか。

○地域は高齢化率がとても高い。ボランティアは年金世代でないと担い手がいない。生涯学習大学に参加している人は増加しているが、60～70歳代の人ばかりで協働といっても助け合うことができない。

○町会が意味のある存在になるために皆が入りたいと思い、皆のためになるような町会にならなければならない。そのために単身者も一緒にまちや生活を守っていくしくみを作っていく必要があるのではないか。

○防災訓練に参加したが、若い方の参加が少ないと感じている。町会の中でも若い人が集まりにくかったり、声をかけにくかったりしているのではないかと考えている。若い人を交えた町会づくりをしてほしい。

○ボランティア人材の確保、支援が必要となる方へのコーディネートを行う組織への支援の強化・充実が必要である。

○区の60%を占める単身者を地域参加させていくか、地域の力として取りこんでいくかのアプローチがない。

○子育てに力をいれている自治体が増加している。若い世代が家を持ち、腰を据えて地域に根付くことにより、町会に加入するのではないか。

○町会自体が今の時代に合っていないような気もする。町会の役割を見直し、若い人なども巻き込めるような工夫をしたい。それには防災も大きな視点の一つになる。テレビで若い学生などに格安の賃料で住宅を提供する代わりに、地域のイベントに必ず参加してもらおうというような工夫をしているケースを放映していた。

○区民活動センターの集会室での軽食を許可してもらいたい。高齢者は外に食事に行くのは大変である。

○区民活動センターについても、充実させていくべきで、地域の自主運営を基本とし、区からの指示のようなことは減らしてほしい。

15. 地域支えあいに係る意見

○家を出た時、知らない大人、子供がおはようございます、こんにちは、と声をかけ合えるまち。

○どの世代の人も関わり合っていけるまちであること、地域とつながっていると思えるまちであること。

○日本人以外も含めた相互の支えあいをつくることは非常に重要であり、ICTの活用も視野に入れて考えるべきだと思う。

○地域の人々が安心して暮らすためには、ちょっとしたおせっかい的な社会貢献がますます重要になる。

○在宅の高齢者を励ますため、手書きの「お便り」を送ったらどうか。

○町会・自治会に来る様々な名簿の整理・統合はできないか。

○一人暮らしのマンション住民には不安を感じている人も多い。団体として町会に入っているだけの人にも地域での活動をもっとPRできるといい。

○単身世帯への関わり、外国人との融和なども、今後の課題ではないか。

○支えあい、安心して暮らせるまちということは、恐らく高齢者のことを含んでいると思うが、もう少し具体的に書いてほしい。また障害者施策も遅れていると思う。

○助けがほしいのであれば、個人としてもコミュニティの参加が必要ではないか。

○新井薬師の環境を考える会のエリアだけでも60以上の団体が地域のために様々な活動を行っている。そのような団体が行う高齢者の見守り活動にポイントを付与し、行政の援助も加えてそのポイントに価値を持たせる。そのポイントを区内共通商品券と交換できるようにするなど、地域通貨として扱う。といった制度はどうか。

○サロンなど高齢者が集まれる場所を増やしたり、仕事ができる人には就労の場を提供したり、またそうでない人には様々なサービスを通じてより良い生活ができるようにしてほしい。

16. 福祉・介護・医療、公衆衛生等サービスに係る意見

- 福祉・医療が整い、産業、学校が充実していて年配の方から若い人が住みやすいまち。
- 中野区における救急医療、予防医療への取り組みの充実を望む。
- 経済的にも全ての立場で弱い人が安心して暮らせる中野。頑張っている人に光のあたる場所、社会であってほしいです。
- 低所得者でも安心して暮らせるまち、お年寄の方でも安全に安心して暮せるまち。
- 高齢者医療と介護事業が持続できるか不安である。事業者との取り組みだけではだめで、認定率を下げるために行政は危機意識を持って取り組みをしていくことが必要である。
- 今後の高齢化の進展を踏まえ、適切な介護施設数を担保してほしい。
- やよいの園の事業が縮小されていることを懸念している。
- 障害児の親が高齢化し、多くの方が親亡き後の行く末を案じている。また、重度の障害児を抱え苦勞している若い親も多い。身体障害者のグループホームのニーズは高まっている。複合施設でもよいので、設置を検討してほしい。
- 虐待児の緊急一時保護施設を充実させてほしい。親に見放されても、保護・救済され、「中野だったら安心だ、中野にいてよかった」と思えるような安全な居場所を整備してほしい。
- 中野区内全域に路上喫煙禁止区域を拡大してほしい。
- たばこのポイ捨ての規制はどうなっているのか。エリア規制までせずとも、灰皿の設置等の対応はできないものか。
- 自分の町会は、日々多くの方が通り、たばこの投げ捨てが多い。植込みの中にたばこを投げ捨てるなど、モラルの低下は甚だしい。喫煙禁止区域にしてほしい。
- 春、秋に窓を開け放って暮らすために、ネズミ、ハエ、カの退治、車の排ガスの減少が必要である。

17. 地域自治（町会等）に係る意見

○町会の加入率を100%とするための区の支援が必要。マンション建設時に加入しないと建設を許可しないとか。

○マンション建設の前には、事業者から町会加入に関する連絡が来るようになった。町会活動への参加者の掘り起こしは、町会・自治会自身の課題だと思うが、このような環境整備・奨励については、今後とも進めてほしい。

○最近新築されたマンションでは、管理会社が町会加入について、十分な説明をしていない場合が多く、町会加入率が悪くなっている現状がある。なんとかならないか。

○町会・自治会の加入率は40%程度である。しかし、地域防災会をはじめ、まち全体に係ることは、結局、町会・自治会が行っている。区として、加入促進を図ってもらいたい。

○区にとって本当に必要なものの有り方を区民一人一人が理解し、常に「これから」を生きる世代を思いながら、今を生きる人とまちづくりに励める区にする。良い所も悪い所も区民が自覚を持ってまち作りに取り組める区。

○町会・自治会の活動者も高齢化している。昔は、隣近所のコミュニティもあったが、現在では、「好きで地域活動している」という受け取りもある。町会・自治会に加入していないと、ごみ、防災、支えあいなどの面倒をみないくらいの強い態度が必要ではないか。

○中野区に転入した時にまちに入れる仕組みの工夫が必要ではないか。

○町会・自治会は、地縁団体として大きな役割を担っていると述べられているが、町会の組織率は確実に落ちてきている。町会への加入を促すのは賛成だが、町会加入率の減少を直視して、施策を考えるべきではないか。町会加入者が少数派の状況下で、未加入区民をどう考えていこうとしているのか。

○地域活動に参加するための仕掛けをつくる。

18. 防犯・防災に係る意見

- あらゆることに、安心、安全で暮せる町づくりが進んでほしい。
- 子供から老人まで安心・安全で豊かにさせること。
- 災害時の支えあい態勢が整備され、安心して生活できている。
- 防災について、区単独で取り組むのではなく、近隣区との連携を強化して欲しい。
- 災害時の避難場所までの道順を矢印などで表示してほしい。幹線道路より内側に入ると道がわかりにくいので、表示があると便利である。
- スタンドパイプが町会に配置されたので、使い方を教えて欲しい。区の施設にAEDが設置されているが、夜間には使用できない。
- 防災士養成講座を受け合格したが、その後、区からの要請等がない。もっと活用して欲しい。
- 15か所の拠点医療救護所については、トリアージなど災害時の訓練をしているが、宣伝が効果的ではないため広く周知されていない。
- 町会・自治会が主催した軽可搬ポンプ操法大会では、多くの中学生が出場し、力強かった。もう少し上の世代の青年にも参加を促し、頑張ってもらいたい。
- 地域に設置されている防災設備の存在を区民が十分に認識していないと思われる。例えば、江古田の森公園芝生広場の「かまどベンチ」が、炊き出し訓練での使用を区に申請したが却下されたという事例も聞いている。
- 最近、空き家が良く目につくようになった。ごみを投げ込まれたり、草生してしまったりすると、見かねた町会や民生委員が始末している。自分の家に加えて空き家の面倒を見るのは大変であり、防犯上もよろしくない。
- ヨーロッパでは、犯罪が起きにくい街の色、街の姿などがあり、街灯などの色を青や緑にするなどの工夫をしている。安全・安心な街を考えるときに、それを参考に、小さい視点ではなくグローバルな発想で取り組むこともよいのではないか。

19. 区政運営に係る意見

- 基本構想を検討する際には、「小さな区役所」とするという視点で臨んでほしい。
- 23区で優れた取組を行っている区はあると思う。遠い自治体に行かなくても、そういう近い区での優れた取組を学んでほしいと思う。
- 区政を評価する指標として、区民の人生の様々な場面をみたときに、住み続けたいと思うかが大切だと思う。この視点で評価すべきと思う。
- 中野区にアイデンティティや愛着心を感じない。他区のように、アピール活動（ゆるキャラ等）も行っておらず、区長選挙の投票率も低いので、存在価値に疑問がある。
- 区の財政が厳しい中、400億もの基金が積みあがったと聞いた。基金は将来の福祉や校舎の建替に必要だということは理解できるが、区民が努力し耐えて生み出されたお金なので、肌で感じられるような使い方もあると思う。
- 「区政の全体象」を区民全員が理解出来る様なシステム作りに努力して欲しい。区民が区政への理解度を深めて、始めて将来像を描く事が出来ると思う。
- 税金を有効に使う区政運営を行ってほしい。
- 住民に負担がかからない形で、ムダのない政策を実行してほしいです。区民税が高い割に住んでいて行政の良さを感じないので改善してほしい。
- 人口減少社会では、子どもたちの数が減少し続ける。子ども施設、小中学校については、子どもがいなくなったら、空いている時間帯には私塾に貸すなど、フレキシブルな施設の活用ができていくといいがどう考えるか。
- ほとんど利用されていない小規模な公園は、売却することを考えてもよいのではないか。
- 鷺宮小学校の跡地を活用して、色々な区の施設を複合化すれば手続きも一括ででき、コミュニティも形成されやすいと思う。
- 施設づくりについても、中央中学校のプールで高齢者が歩行訓練などで利用しているが、排水溝がないため滑りやすいなど、せつかく施設整備をするならそういう点も配慮してほしい。
- 区民開放型の区立中学校プールが、6月に開放を開始したが、利用に支障があり、9月に再び改修工事に入った。今回の改修工事には、意見を言う機会がなかった。施設整備にあたっては、計画の段階から利用者や専門家の意見を聞くなど、利用者の声を十分

に反映していくべきである。

○区の様々な施策を検討する際に、障害者が関われる場が少ないと感じる。障害者の状況は、障害の状態や勤務状況等の個人差が大きい。障害当事者が検討に参加する場を増やすべきである。

○各種の計画、特に施設整備の計画の際などには、実施内容が固まる前に意見を聞き、利用者に使いやすい施設となるよう十分に配慮してもらいたい。

○「小さな区役所」を目指すならば、区役所を建替えるのではなく、現在の建物を活かしていく必要がある。

○地域事務所の利便性もあまり向上せず、事務所も減らされた。また、保健や福祉関係の事務も一か所ではできない。保健所も別などところにある。それなら、すべての業務を地域に分割して支所を作ったらどうか。

○区有施設で卓球をしているが、二中の体育館と新井区民活動センターでは利用料金にあまりにも違いがあるのはなぜか。

○区役所だけでなく、各区民活動センター単位の身近な地域での話し合い等に、障害当事者が参加し、発言できる場・機会を設け、十分なコミュニケーションがとれるよう努めてほしい。

○情報と密接に連動した区政運営を行う。区民情報を区政に活かす。

○情報発信力を強化する。HP再構築、お知らせ掲示板の電子システム化を行う。

○情報発信における無駄を排除する。他区と共通する情報発信は、他区と共同で運営する。

○市民目線で市民と行政を密接に結ぶ情報通信システムを再構築する必要がある。

○中野区は情報化が遅れていて、施設予約や図書館での貸し出し等には不便を感じている。マイナンバー制度の導入は、情報化を推進する良い機会ではないか。

○職員の教育を重点的にやってもらいたい。職員の勤労意欲が落ちており、区民への接し方も良くない。

○町会・自治会の助成金だが、年々町会費の徴収額が減っているなか、町会会館の維持費もかかる。以前からあるマンションは、相変わらず町会に入らないし、助成制度の算定基準の見直しもお願いしたい。

20. 平和・国際化に係る意見

○外国人にも住みやすいまちを目指すと、子供や高齢者にとっても住みやすく、また国際的なまちになる。

○日本の文化を大切にしつつ、外国人の人材をもっと積極的に活用して、より国際的で魅力あるまち作りを実現してほしい。

○外国人についての項目がひとつしかない。大学寮等の誘致の結果、国費留学生等の良質な外国人が中野に居住している。その定着対策が必要だと思う。

○グローバル化を踏まえると外国語等の表示が整備される必要がある。

○年々、国際化が進んでいく中で、異文化交流など（各種イベント）相互理解と調和を目的とした取組みを増やすべきではないか。

○中野駅に外国人の方々を見かけるようになった。大学ができて留学生の方々がいると思う。ブロードウェイにブースをつくり、留学生の方々にガイドになってもらうのはどうか。